

入江地区防災福祉コミュニティ

# 地域おたすけガイド

## 災害時初動対応マニュアル

### 地域おたすけガイドの作成にあたって

- ◎地域おたすけガイドは、地域の皆さんが災害時に活動する際に、活用するものです。
- ◎災害時は周囲の状況をよく確認し、自らの安全を確保し、無理をせず、自分たちのできる範囲で活動を行うことが大前提です。
- ◎防コミで訓練を通して繰り返し検証して、入江地区に適したガイドにするために、どんどん見直していきましょう。
- ◎毎年一回は総会等で確認する機会を設けましょう。

平成31年3月作成

入江地区防災福祉コミュニティ

## ■入江地区の主要施設・設備等

防コミ運営本部 設置場所	入江地域福祉センター ☎078-682-8919	
ブロック本部 設置場所	西出ブロック	入江地域福祉センター
	東出ブロック	東出町自治会館
	七宮ブロック	本町公園集会所
	佐比江ブロック	猿田彦神社集会所
指定避難所	湊小学校 ☎078-360-1200	
	兵庫中学校 ☎078-577-0744	
	須佐野中学校 ☎078-671-4261	
防災資機材庫の場所	入江地域福祉センター	東出町自治会館
	本町公園	佐比江公園
災害時要援護者 名簿保管場所		
防災行政無線の場所		

### (参考) 防コミ運営本部設置基準

- ・震度5弱以上若しくは兵庫県瀬戸内海沿岸に津波警報が発表された場合、地震による災害が発生し、又は災害が拡大する恐れがある場合。
- ・特別警報が出された場合。
- ・上記のほか、大雨等で神戸市に土砂災害警戒情報が発表された場合。

### (参考) 避難勧告の種類

#### 【避難準備・高齢者等避難開始】

災害発生の可能性がありますので、避難できるように準備してください。  
避難に時間がかかる方は早めに避難しましょう。

#### 【避難勧告】

災害発生の可能性が高まっています。避難を開始してください。

#### 【避難指示(緊急)】

いまにも災害が発生する可能性があります。すぐに避難してください。

※大雨などで避難所への避難が危険なときは、崖から離れた2階以上の部屋に避難しましょう。

# ■入江地域福祉センター防災資機材庫収納品リスト

鍵保管場所:

確認日:平成 年 月 日

鍵保管者氏名:

区分	品名	数量	区分	品名	数量	区分	品名	数量
消火用資機材	動力消防ポンプ		個人装備品	ヘルメット	22	搬送用・本部用資機材	折畳みリヤカー	1
	粉末消火器	3		ジャンパー	7		一輪車	1
	強化液消火器			夜光ベスト			台車	2
	訓練用消火器	10		手袋	17		本部用テント	
	コンプレッサー	1		腕章			折畳み式テーブル	
	空気入れ	1		携帯用電灯	4		携帯発電機	
	布バケツ	50		提灯			投光機	1
	組立水槽	1		マスク(50枚入)	2		訓練用放送セット	
	オイルパン						サルベージシート	
	スタンドパイプ			救出・救助用資機材	スコップ		4	コードリール
	消火栓キー		パール		4	ストーブ・ヒーター		
	手かぎ		ジャッキ		1	冷風機		
	50mm ホース		チェーンソー		1	ブルーシート	5	
	65mm ホース		可搬式ウインチ			ラジオ	2	
	管轄・ノズル		エンジンカッター			かまどセット		
	リチ・モーターリチ	1	のこぎり		3	コンロ	1	
	媒介金具類		つるはし		1	鍋・やかん類		
	消火用ボックス		ハンマー		2	ポリタンク		
	携行ガソリン缶		おの			保冷用ボックス		
	オイル		はしご・脚立		鉄板			
救急・救護用具	救急セット	2	コンクリート破碎器具		その他	拡声器(メガホン)	2	
	多人数用救急箱		災害救助工具セット	2		トランシーバー		
	折畳み式担架	1	特殊ワイヤー			拍子木		
	車いす	1	救助用ロープ	3		くさび		
	牽引式補助具		救助用安全帯			防コミ旗		
	段ボール製担架	1	ボルトクリッパー(大)	1		コンクリートドリル替え刃		
	縄はしご	1	ボルトクリッパー(小)			ロープ(10m)	3	
	防寒用ケツト	2	ドリルの替え			トイレ用袋	9	
						ティッシュ(箱)	6	

【特記事項】

# ■東出町自治会館防災資機材庫収納品リスト

鍵保管場所：

確認日：平成 年 月 日

鍵保管者氏名：

区分	品名	数量	区分	品名	数量	区分	品名	数量
消火用資機材	動力消防ポンプ		個人装備品	ヘルメット	8	搬送用 本部用資機材	折畳みリヤカー	1
	粉末消火器	4		ジャンパー	1		一輪車	
	強化液消火器			夜光ベスト			台車	1
	訓練用消火器			手袋(軍手)	15		本部用テント	
	布バケツ	50		腕章			折畳み式テーブル	
	組立水槽			携帯用電灯	6		携帯発電機	
	オイルパン			防じんマスク	10		投光機	
	スタンドパイプ			誘導灯	2		訓練用放送セット	
	消火栓キー			スコップ	3		サルベージシート	
	手かぎ		バール	1	コードリール			
	50mm ホース		簡易ジャッキ(大)	1	ストーブ・ヒーター			
	65mm ホース		簡易ジャッキ(小)	2	冷風機			
	管槽・ノズル		チェーンソー		ブルーシート			
	いす・モキ・いす		可搬式ウインチ			7		
	媒介金具類		エンジンカッター		炊き出し用具	かまどセット		
消火用ボックス		のこぎり	5	コンロ		2		
携行ガソリン缶		つるはし	1	鍋・やかん類		3		
		ハンマー	1	ポリタンク				
救急・救護用具	救急セット(大)	1	救出・救助用資機材	おの		保冷用ボックス		
	救急セット(小)	1		はしご・脚立		鉄板		
	多人数用救急箱			コンクリート破碎器具		その他	拡声器(メガホン)	2
	折畳み式担架	1		災害救助工具セット	1		トランシーバー	
	車いす	1		とびぐち	1		拍子木	
	牽引式補助具			救助用ロープ	5		くさび	
				救助用安全帯			防コミ旗	1
				ボルトクリッパー	1		コンクリートドリル替え刃	
				ドリルの替え	1		タオル	50
				袋(ブルーバック)	40			

【特記事項】

# ■本町公園防災資機材庫収納品リスト

鍵保管場所：本町集会所

確認日：平成31年2月11日

鍵保管者氏名：

区分	品名	数量	区分	品名	数量	区分	品名	数量
消火用資機材	動力消防ポンプ		個人装備品	ヘルメット	6	搬送用本部用資機材	リヤカー	1
	粉末消火器			ジャンパー	7		一輪車	1
	強化液消火器	3		夜光ベスト	5		台車	1
	訓練用消火器			軍手	24		本部用テント	
	布バケツ			特殊手袋	18		折畳み式テーブル	
	組立水槽			携帯用電灯	3		携帯発電機	
	オイルパン		安全メガネ		投光機			
	スタンドパイプ		救出・救助用資機材	スコップ	3		訓練用放送セット	
	消火栓キー			バール	1		サルベージシート	
	手かぎ			簡易ジャッキ	2		コードリール	
	50mm ホース			チェーンソー			ストーブ・ヒーター	1
	65mm ホース			可搬式ウインチ			収納庫	
	管轄・ノズル			エンジンカッター			ブルーシート	5
	ワザ・モリワザ			のこぎり	3		かまどセット	
	媒介金具類			つるはし	1		コンロ	
	消火用ボックス			ハンマー	1		鍋・やかん類	1
	携行ガソリン缶			おの	4		ポリタンク	
	火の番(消火器)			はしご・脚立	2		ドラム	
メクロール(消火薬剤)		コクリト破碎器具			軍手			
救急・救護用具	救急セット	1	災害救助工具セット	1	飲料水袋			
	多人数用救急箱		とびぐち	2	その他	拡声器(メガホン)	4	
	折畳み式担架	1	救助用ロープ	2		アルミブランケット		
	車いす	1	救助用安全帯			応急寝袋		
	牽引式補助具		ボルトクリッパー			簡易トイレ		
	緊急呼子		ドリル			ロープ		
			ドリルの替え			車止め		
		保温シート	3	LPガスボンベ				

## 【特記事項】

\*資材購入希望品

- ・消火器
- ・多人数用救急箱

# ■佐比江公園防災資機材庫収納品リスト

鍵保管場所：

確認日：平成31年2月16日

鍵保管者氏名：

区分	品名	数量	区分	品名	数量	区分	品名	数量
消火用資機材	動力消防ポンプ		個人装備品	ヘルメット	8	搬	折畳みリヤガー	
	粉末消火器(大)	3		ジャンパー			一輪車	1
	粉末消火器(小)	1		夜光ベスト	4		台車	
	強化液消火器			軍手			本部用テント	
	訓練用消火器			皮手袋			折畳み式テーブル	
	布バケツ			特殊手袋			携帯発電機	
	組立水槽			ライト	1		投光機	
	オイルパン			LEDガードマンライト	2		訓練用放送セット	
	スタンドパイプ			懐中電灯(電池4本)	1		サルベージシート	
	消火栓キー			防じんマスク	2箱		コードリール	
	手かぎ			スコップ			ストーブ・ヒーター	
	50mm ホース			バール	1		冷風機	
65mm ホース		ジャッキ・油圧ボトル	2	ブルーシート				
管槍・ノズル		救出・救助用資機材	チェーンソー		炊き出し用具	かまどセット		
ワチ・モキ・ワチ			可搬式ウィンチ			コンロ		
媒介金具類			エンジンカッター			鍋・やかん類		
消火用ボックス			のこぎり			ポリタンク		
携行ガソリン缶			つるはし			保冷用ボックス		
救急セット			ハンマー			鉄板		
多人数用救急箱			おの		その他	拡声器(メガホン)	5	
折畳み式担架			はしご・脚立			トランシーバー		
車いす	1		コンクリート破碎器具			応急寝袋		
牽引式補助具			災害救助工具セット			くさび		
レスキューキャリアボード	1		とびぐち			防コミ旗		
タオル	10		救助用ロープ			車止め		
サニタリークリーン	11	救助用安全帯		ロープ		1		
		ボルトクリッパー		ちりとり・ほうき		1組		

## 【特記事項】

\*水・食料品(缶入り乾パン)等、期限のある物を定期的に購入してほしい。

## ■防コミ運営本部及び各自治会の活動拠点担当役員

防災拠点	役職	氏名	連絡先
防コミ運営本部 入江地域福祉センター			
西出ブロック 入江地域福祉センター			
東出ブロック 東出町自治会館			
七宮ブロック 本町公園集会所			
佐比江ブロック 猿田彦神社集会所	佐比江町自治会長		
	猿田彦神社会計		
	佐比江町自治会会計		

## ■入江地区防災福祉コミュニティ名簿

顧問	
委員長	
副委員長	
会計	
会計監査	

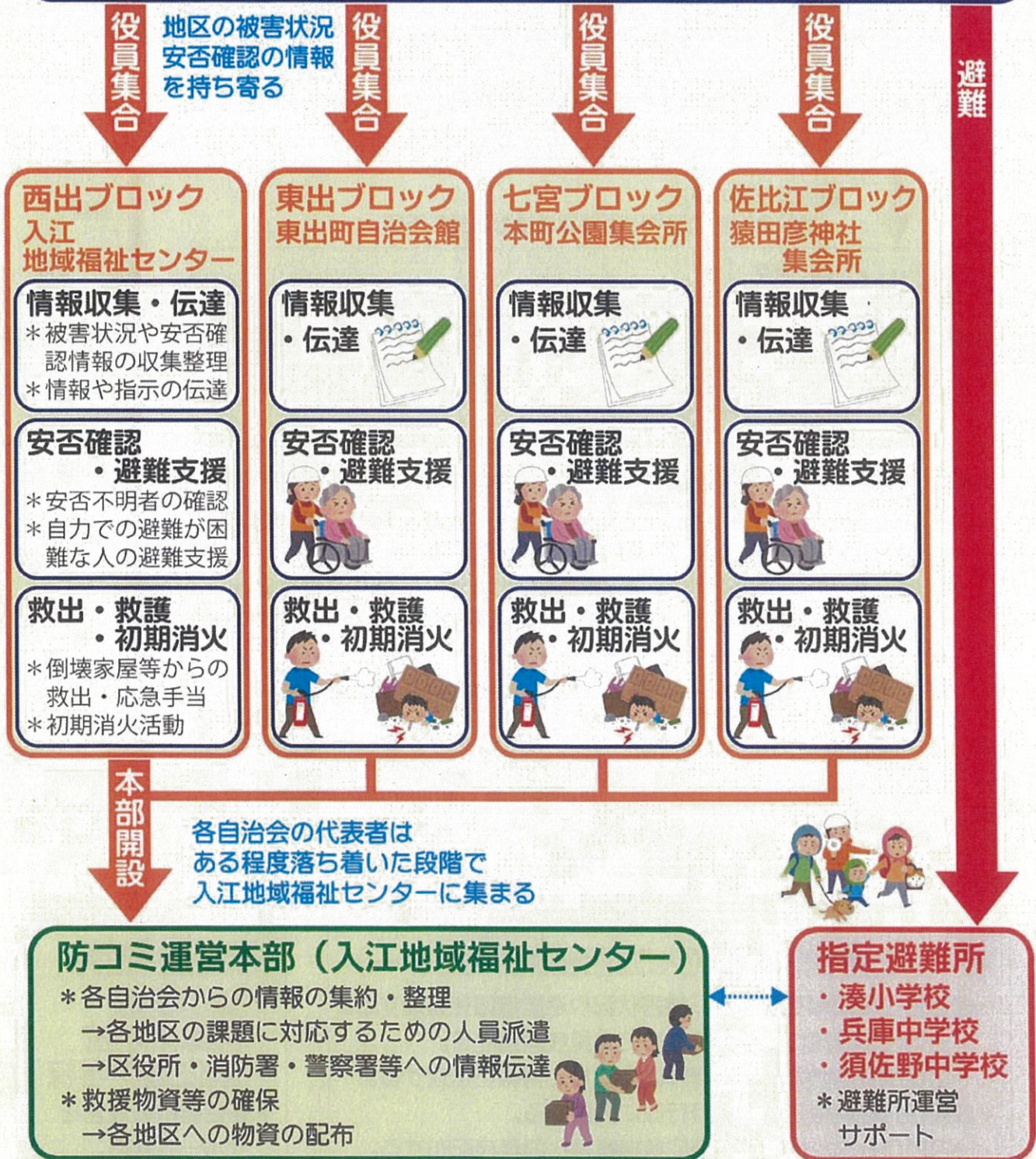
西出ブロック	ブロック長	
	副ブロック長	
	監査	
東出ブロック	ブロック長	
	副ブロック長	
	会計	
七宮ブロック	ブロック長	
	副ブロック長	
佐比江・兵庫・湊町 ブロック	ブロック長	
	副ブロック長	



## ■災害対応活動におけるやりとりのイメージ

### 地域住民・ご近所・自治会

- \*各自で身の安全を確保し、避難及び災害対応 ※P.10「各家庭での災害対応」参照
- 【台風や大雨が接近した場合】→基本は自宅待機！避難する場合は早期に！
- 【地震が発生した場合】→津波が予想される場合は、津波浸水想定区域外、あるいは最寄りの津波緊急待避所の3階以上に避難！
- \*可能な範囲で安否確認や自力での避難が困難な人の避難支援を行う。
- \*避難する過程で近隣の被害状況や安否確認の情報を避難所に持ち寄る。



## ■ 災害対応活動におけるやりとりのイメージ

### 地域住民・ご近所・自治会

- \* 災害発生時は各自で身の安全を確保し、避難及び災害対応を行う。  
※P. 10「各家庭での災害対応」を参照し、日ごろから災害の発生に備えておくこと。
- 【台風や大雨が接近した場合】  
→基本は屋内の安全な場所で待機する。不安な場合は避難するかどうかを自主的に判断し、避難する場合は早期を心がける。
- 【地震が発生した場合】  
→津波警報やそれに伴う避難勧告・避難指示が発表された場合は、津波浸水想定区域外、あるいは最寄りの津波緊急待避所の3階以上に避難する。
- \* 可能な範囲で安否確認や自力での避難が困難な人の避難支援を行う。
- \* 各人が避難する過程で近隣の被害状況や安否確認の情報を避難所に持ち寄る。

自治会役員の場合  
・地区の被害状況や安否確認の情報を持ち寄る

避難

### ブロック本部

- ・西出ブロック：入江地域福祉センター
- ・東出ブロック：東出町自治会館
- ・七宮ブロック：本町公園集会所
- ・差比江ブロック：猿田彦神社集会所

\* 自治会役員が中心となり、ブロック本部に集まった人の中から協力者を募って、必要な災害対応活動を行う。

#### 情報収集・伝達

- \* 避難してきた人々が持ち寄った地域内の被害状況や安否確認に関する情報を収集・整理する。
- \* 収集した情報や必要な指示を、自治会メンバーや防ミ運営本部に伝達する。

#### 安否確認・避難支援

- \* 身の安全に留意しながら可能な範囲内で、安否不明者の確認や自力での避難が困難な人の避難支援を行う。

#### 救出・救護・初期消火

- \* 身の安全に留意しながら可能な範囲内で、倒壊家屋等からの救出活動や応急手当、初期消火活動を行う。

ある程度落ち着いた段階で各自治会の代表者が集まり、地域福祉センターに防ミ運営本部を開設する。

### 防ミ運営本部（入江地域福祉センター）




- \* 各自治会の情報を集約し、被害状況や避難情報を整理する。  
→各地区の課題に対応するための人員を派遣する。  
→区役所や消防署、警察署等に集約した情報を伝達する。
- \* 救援物資等が得られるよう行政に要請する。  
→各ブロックと協力し、自宅待機者等へ物資を配布する。

### 指定避難所

- ・湊小学校
- ・兵庫中学校
- ・須佐野中学校
- \* 各避難所の運営をサポートする。

## ■各家庭での災害対応

台風や大雨が接近した場合の災害対応のポイント

<p><b>①基本は 自宅待機</b></p>  <p>暴風時の避難は危険な場合もある。2階等、屋内の安全な場所で待機する。</p>	<p><b>②正確な情報を 収集する</b></p>  <p>テレビ、ラジオ、スマートフォンなどを使って、正しい情報を得る。</p>	<p><b>③早期の自主避難を心がける</b></p> <p>「避難準備・高齢者等避難開始」が発表された際には、避難するかどうかを自主的に判断し、避難する場合は早期を心がける。</p>  <p>避難所（湊小学校）の開設状況等を知りたい場合は、自治会の役員に連絡する。 ※湊小学校の正門付近は冠水する恐れがあるため、西門を利用すること。</p>
---	---	--

地震に伴う津波の発生が予想される場合の災害対応のポイント


<p><b>①津波を 警戒する</b></p> <p>地震の揺れがおさまったら、「津波」を意識して、テレビ、ラジオ、スマートフォンなどで、津波・大津波警報の有無を確認する。</p>	<p><b>②とにかく高い場所へ避難する</b></p> <p>可能な限り近所の人へ避難を呼びかけた上で、津波浸水想定区域外へ徒歩で移動する。津波到達予想時間までに避難できそうにない場合は、最寄りの津波緊急待避所の3階以上に避難する。</p>  	<p><b>③絶対に 戻らない</b></p> <p>津波は長い時間繰り返し襲ってくる。避難勧告・避難指示が解除されるまで絶対に戻らず、指定避難所（兵庫中学校等）で待機する。</p>
--	--	---

地震が発生した場合の災害対応のポイント

<p><b>①まず身の安全を守る</b></p>  <p>しせいを低く 頭を守って 動かない</p> <p>地震の揺れを感じたら、まず姿勢を低くし、丈夫なテーブルの下に隠れたり座布団等を使って頭を守り、ある程度揺れがおさまるまで、じっと動かない。</p>	<p><b>②家族の安全を確認する</b></p>  <p>家具が倒れてこないような家の中の安全な場所に避難する。</p>	<p><b>③火・電気を 始末する</b></p>  <p>火器の火を止め、ガスの元栓を締める。電気のブレーカーを落とす。</p>	
<p><b>④避難経路を 確保する</b></p>  <p>建物がゆがんでドアがあかなくなれば危険。ドアや窓を開けておく。</p>	<p><b>⑤身支度を 整える</b></p>  <p>靴を履き、あらかじめ用意しておいた防災グッズや工具等を確保する。</p>	<p><b>⑥屋外の状況を確認する</b></p>  <p>ガレキによる転倒や落下物等、飛び出さずに確認してから外へ逃げる。</p>	<p><b>⑦正確な情報を 収集する</b></p> <p>正しい情報を聞くことが大切</p>  <p>テレビ、ラジオ、スマートフォンなどを使って、正しい情報を得る。</p>

各自治会における災害対応活動に協力できる人は、活動拠点に集合する。また協力できなくても、地域の被害状況や安否確認情報等は各自治会に集約する。10

## ■各家庭でも日頃から災害への備えを！

各家庭で準備できること	確認欄
津波による被害が想定される区域やまちの危険箇所、避難所までの経路等、普段から住んでいる地域の状況を把握しておく。	
外出先で被災した場合等を考え、家族の連絡方法や集合場所を決めておく。	
緊急時に気象情報や避難情報をいち早く発信する 「ひょうご防災ネット」等の情報サービスに登録しておく。	

### 安心ストック

ライフラインが途絶えても、何日間かは自給自足してしのぐための物品を備蓄しておきましょう。

- 水 調理のことも考えて 1人1日3リットルを目安に
- 主食 ご飯の場合は、レトルト、多めに炊いたご飯を冷凍しておくなど
- 缶詰 長期保存に適しています 缶切りが必要なタイプもあるので注意
- インスタント食品
- フリーズドライ食品
- 漬物 梅干しなど
- 乾物 不足しがちなビタミン、食物繊維の摂取に役立ちます
- 菓子類 チョコレート、キャンデーなど
- 調味料



- キッチンペーパー
- ポリ袋（大、小）
- ティッシュペーパー
- トイレットペーパー 南海トラフ地震では不足すると言われています
- 簡易トイレなど 災害用トイレなど 断水状態でも使用できるように
- 家庭用救急セット 毛抜き、ガーゼ、包帯など
- 持病薬 無くなる前に診察を受け、数日分をストック 合わせて処方箋のコピーも
- 生理用品
- 充電器、予備の乾電池



### いつもケータイ

災害はいつ起きるかわかりません。いつも使うバッグやポケットに入れて身に着ける、あるいは枕元に置いておきましょう。

- 家、車の鍵
- 財布 小銭も入れておく
- 身分証明書
- 健康保険証
- 携帯電話 できれば充電器も
- 筆記用具 できれば油性ペンも



- ハンカチ、手ぬぐい
- マスク ふんじんを防ぎましょう
- 懐中電灯 ペンライト、携帯電話でも代用可能
- 携帯ラジオ 手回し・ソーラー式なども便利
- スリッパ 食器棚等が倒れ、ガラスが散乱した場合、足を守ることができます
- 緊急ホイッスル 居場所を知らせる用です



### 非常持ち出し品

家の倒壊や火災等によって避難が必要となった場合、さっと持ち出して逃げられるようリュックサックに入れておきます。

- 飲料水 1人最低 500 ミリリットル
- 加熱がいらぬ食料
- ラップ 清潔なものであれば、止血、食器覆い用
- サバイバルシート 保温性の高いアルミシート
- 着替え 肌着など
- タオル 洗って乾かしたもの



- 軍手・ゴム手袋
- 雨具
- マッチ、ライター、ろうそく
- 生理用品 清潔なものであれば緊急時の止血用としても
- 歯ブラシ 誤嚥性肺炎を防ぎます
- 預貯金通帳・印鑑



## ■事前の準備

防災福祉コミュニティ	確認欄
非常時に連絡が取り合えるよう、防コミや各自治会の名簿・連絡網等を整理しておく。	
大雨や台風が接近した場合の避難所開設の手順や、情報伝達について確認しておく。	
防災資機材庫のカギの所有者、保管場所を確認しておく。	
防災資機材庫の収容品等を確認しておく。	
土のうや消火器等必要な機材の配備・管理・整備を進めておく。	
日頃から各家庭で災害への備えをしておくよう意識啓発を進めておく。 ※P.10 参照	
各家庭でも非常持ち出し品を備えるよう呼び掛ける。 ※P.11 参照	
トランシーバーや無線等の連絡用機材、消火器や小型動力ポンプ等、初期消火用機材の使い方の訓練をしておく。	
ブロック本部や防コミ運営本部立ち上げのための備品（ホワイトボードや筆記具、ポストイット等）、被害状況集計表、避難者名簿等を準備しておく。	
地域の安全確認用地図、避難経路確認図を準備しておく。	
民生委員等と協力し、災害時要援護者の情報を整理しておく。	
民生委員等と協力し、各自治会で避難支援が必要な人の名簿を整理しておく。	
災害時に各地域・自治会等を代表してブロック本部や防コミ運営本部（入江地域福祉センター）に集まる人を決めておく。	
地域おたすけガイドが完成した段階で、東川崎防災福祉コミュニティと、 <u>湊小学校避難所の運営、支援物資の配布等</u> についての協議を行っておく。	

## ■風水害発生時における災害対応

### 【災害発生前】

自治会役員間での連絡 → 災害対応方針の決定		確認欄
自治会役員は気象情報、内水氾濫の情報等を収集し、地域の状況を整理する。		
大規模な風水害が発生すると予想される場合、各自治会長は緊急役員会を開いて各地区としての災害対応の方針について確認を行う。		
住民への呼びかけ		確認欄
役員会によって必要と判断された場合、各役員は住民に無用な外出を控え、屋内の安全な場所で待機するよう呼びかける。		
湊小学校へ避難する場合、正門付近は内水はん濫による浸水が予想されることから、早期に判断して西門を利用することを呼びかける。		
防コミとしての災害対応方針		確認欄
各自治会と連絡を取り合い、入江地域防災福祉コミュニティとしての災害対応の方針について確認を行う。		
避難所の開設		確認欄
平日の昼間等、湊小学校に関係者がいる場合は連絡をとり（078-360-1200）、避難所が開設するかどうかを確認する。		
夜間や休日等、湊小学校に関係者がいない場合は、湊小学校施設開放委員長（PTA長谷会長）と連絡をとり、避難所の開設や運営について確認する。		
避難所が開設される場合、予め決められた役員は湊小学校へ赴き、避難所運営のサポートを行う。		

### 【災害発生後】

※安否確認や自力での避難が困難な人の避難支援、救出活動等具体的な災害対応活動については、14 ページ以降の「地震発生時における災害対応」参照

**■地震発生時における災害対応（津波が予想される場合）**  
**【災害発生直後】**

ブロック（自治会毎）の災害対応	確認欄
ラジオ、テレビ、携帯電話、防災行政無線等で地震や津波に関する情報等の収集を行う。	
気象庁から津波警報、神戸市から避難勧告や避難指示が発表された場合は、近所の人へ津波浸水想定区域からの避難を呼びかける。	
津波到達予想時間までに避難できそうにない場合、最寄りの津波緊急待避所の3階以上に避難するよう呼びかける。	
自力での避難が困難な人（災害時要援護者や障がい者、お年寄り、妊婦、負傷者等）がいる場合、自分の身の安全の確保を前提とした上で、避難支援を行う。	
避難勧告・避難指示が解除されるまで、津波浸水想定区域外の指定避難所（兵庫中学校）で待機する。	

## ■地震発生時における災害対応（津波の心配がない場合）

### 【災害発生直後】

ブロック（自治会毎）の災害対応		確認欄
各自治会で予め決められた役員は、災害対応の拠点となる集会所等（入江地域福祉センター、東出町自治会館、本町公園集会所、猿田彦神社集会所）に集合し、各ブロック本部を立ち上げる。		
各人が持ち寄った情報から、地区内の被害状況等を整理する。		
災害対応の拠点となる集会所等に集まった避難者を、指定避難所（湊小学校・兵庫中学校）に誘導する。		
自治会役員が中心となり、集会所等に集まった人の中から協力者を募って活動班の編成を行い、対応すべき災害に応じて以下の災害対応活動を行う。		
各自治会単位での情報収集・伝達		確認欄
情報伝達の手段や順番（誰が誰にどのように伝えるのか）を、連絡網や集まってきたメンバーを考慮して決定する。		
ラジオ、テレビ、携帯電話、防災行政無線等で地震情報等の収集を行う。		
災害対応の拠点となる集会所等に集まった住民から、近隣の被害状況や安否確認の情報、避難するかどうかを聞き出し、整理する。		
気象情報や地区内の被害状況や指示内容等を、各活動班に伝達する。		
各自治会単位での安否確認		確認欄
自治会で事前に用意している名簿や、収集した安否確認情報をもとに、安否確認活動が実施できるよう人員の割り振りを行う。		
建物の外観の確認や声かけ・呼びかけを実施し、安否不明者の確認を行う。		



各自治会単位での避難支援		確認欄
民生委員と協力し、自力での避難が困難な人（災害時要援護者や障がい者、お年寄り、妊婦、負傷者等）の情報を整理し、必要な人員を確保する。		
自力での避難が困難な人の避難支援を行う。		
自宅で待機できる状況であった場合も、その情報を自治会として集約する。		
各自治会単位での救出・救護活動		確認欄
被害情報等に基づき、救出活動が実施できるよう人員の割り振りを行う。		
二次災害に注意しながら、防災資機材等を活用し、倒壊家屋等からの救出活動を行う。		
負傷者の救護（応急手当）を実施する。		
各自治会単位での消火活動		確認欄
被害情報等に基づき、消火活動が実施できるよう人員の割り振りを行う。		
火災を発生させないよう周囲の人に、「火器の火を止める」「ガスの元栓を締める」「電気のブレーカーを落とす」といった声かけを行う。 ※P.10 参照		
消火器や小型動力ポンプ等、あらゆる消火器具等を活用し、初期消火を行う。		
避難所の開設		確認欄
予め決められた役員は湊小学校へ行き、避難所運営のサポートを行う。		

【災害発生から数時間～3日(72時間)くらい】

防コミ運営本部の運営		確認欄
ある程度落ち着いた段階で、各自治会の災害対応活動の拠点から役員が集まり、入江地域福祉センターに防コミ運営本部を開設する。		
自治会との連絡を通じ、地域内の被害状況等を収集・整理する。		
必要に応じて、自治会の各種災害対応活動を支援するための人員等を収集・派遣する。		
収集・整理した情報をブロック本部や、区役所、消防署、警察署等に伝達する。		
<u>避難所と連絡をとりあい、支援物資等の情報を共有する。</u> (場合によっては支援物資の分配を要請する。)		
避難所で想定される活動		確認欄
<p>各避難所を運営する地域団体、学校関係者、区役所職員や災害ボランティアなどに協力する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 正式な避難者カード等を活用し、避難者のより詳細な情報を名簿にまとめる。</li> <li>* 避難者名簿の記載事項に基づき、持病がある人等に適切な処置が施せるよう聞き取り調査を行う。</li> <li>* 福祉避難所を必要とする人については、避難所を巡回する市の保健師につなぐ。</li> <li>* 必要に応じて、入江地域福祉センター等、避難所外部の福祉避難所へ、災害時要援護者を移動する。</li> <li>* 女性や子育て家庭、一緒に連れて避難してきたペットなどに配慮する。</li> </ul> </div>		
生活情報の収集・周知		確認欄
生活情報の収集および住民への周知を行う。		
防火・防犯パトロールの実施		確認欄
パトロール班を結成し、二次災害に注意しながら、交代で地域内のパトロールを行う。		
支援物資等の配布		確認欄
必要に応じて、自宅待機者や避難が困難な人へ、情報や物資の提供を行う。		

# 避難者名簿

避難所名：

作成日： 年 月 日

	フリガナ 氏名	住所	性別	年齢	要 援 護	備考 (持病の有無や配慮事項等)	退所日
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

簡易避難者カード				
所属自治会				
情報の使用 どちらかに○	安否確認があった場合、この情報を使用することに… 同意する      同意しない			
世帯代表者氏名	(      歳)			
家族 (ここにいる方)	氏名	年齢	連絡先	備考

**①簡易避難者カードの配布**

- \*自治会長などの協力をもらい、地区ごとにカードを配布してもらいます。
- \*同時に避難者の数を数えてもらいます。

**②避難者の数の把握**

- \*自治会長などから、それぞれの地域の避難者数を聞き、避難者の総数を把握します。

**③簡易避難者カードの収集**

- \*自治会長などの協力をもらい、世帯代表者が記入した簡易避難者カードを地区ごとに収集してもらいます。
- \*安否がすぐに分かるよう、掲示板などにカードを貼ってもよいでしょう。

**④より詳細な避難者情報の収集**

- \*避難所の状況が落ち着いてから、正式なカード(裏面)を改めて配布・収集します。

# 避難者カード

避難者 / 在宅被災者		避難所名			
避難区分	避難者 / 在宅被災者	入所日		退所日	
避難形態	避難所 / テント / 車両 / その他 ( )				
被害状況	全壊 / 半壊 / 一部損壊 ( 床上床下浸水 断水 停電 ガス停止 電話不通 ) / なし				
特記事項	※消気や怪我、障がいでの注意点、医薬品や粉ミルク等の必要物資、その他特別な要望があれば記入して下さい。				
記入者名		国籍	日本 / 外国 ( )		
住所	〒				
メール		電話番号		携帯番号	

## 【ご家族情報】

※該当項目を○で囲む、または☑チェックを入れて下さい。ご家族が多い場合には用紙をもう一枚お使いください。

	氏名 (ふりがな)	年齢	性別	病気・怪我	妊産婦	乳幼児	障がい者			要介護	医療機器	アレルギー
							身体	療育	精神			
世帯主 代表者			男									
			女									
ご家族 同居人 ペット			男									
			女									
			男									
			女									

## 【転出先情報】

住所	〒	連絡先	
----	---	-----	--

※避難者カードは避難所への入所時に世帯代表の方が記入してください。避難者カードを提出することで避難者登録され、避難所での生活支援が受けられるようになります。内容に変更がある場合には速やかに避難所スタッフに申し出てください。

ご記入頂いた情報は、災害対策本部や避難所運営と支援のために最低限必要な範囲で共有します。また、被災者台帳に利用されます。

# 情報収集・伝達

1. ラジオ、テレビ、防災行政無線等で地震情報等の収集を行う。
2. 地域内の災害情報を把握する。

## 情報収集・伝達手順

### 1. 情報収集

収集した情報はホワイトボード等に時系列で記載する。

#### ①ラジオ等での情報収集

通信手段が確保されている場合は、ラジオ、テレビ、防災行政無線のほか、電話等も活用する。

#### ②行政からの情報収集

各種機関へ直接連絡を取り、必要な情報を収集する。また、定期的に区役所等に出向くなどして、公開されている情報を収集する。

#### ③各自治会からの情報収集

地区内の被害状況や避難状況等の情報を収集する。

### 2. 情報伝達

情報を伝える手段として、ハンドマイク、広報掲示板、回覧板も効果的に活用する。

# 安否確認

1. 安否確認情報を収集する。
2. 安否不明者の確認を行う。
  - ①事前に用意している災害時の要援護者名簿に基づき安否確認を行う。
  - ②事前に用意していない場合は、民生・児童委員等と協力し安否確認を行う。

## 訪問先での確認手段

1. 外観の確認  
建物に甚大な被害がないかを確認する。
2. 声かけ・呼びかけ確認  
門の外側で大きな声で呼びかけ、安否を確認する。
3. ドアをノックする  
応答がないときは、呼びかけと一緒にドアをノックする。
4. 庭、勝手口等の確認  
状況が把握できないときは、庭、勝手口などを確認する。

# 災害時要援護者の避難支援

1. 自宅の損傷の状況等により、避難所に避難する必要のある災害時要援護者の避難支援を行う。
2. 避難所に集まった人で、支援者の割り振りを行う。  
※あらかじめ用意しておいた名簿等に基づき、民生委員と連携して、避難支援を行う。

## 避難支援のポイント

1. 一人暮らし高齢者  
迅速な情報伝達と避難誘導、安否確認および状況把握が必要。
2. 寝たきりの要介護高齢者  
避難時は車いす、担架、ストレッチャー等の補助器具が必要なことがある。
3. 認知症の人  
安否確認、状況把握、避難誘導の援助が必要。
4. 視覚障がい者  
音声による情報伝達や状況説明、避難誘導等の援助が必要。
5. 聴覚障がい者  
補聴器の使用や、手話、文字、絵図等を活用した情報伝達および状況説明が必要。
6. 言語障がい者  
手話、筆談等によって状況を把握することが必要。
7. 在宅人工呼吸器使用者  
避難所での電源確保が必要。
8. 怪我等のため自力で避難できず、自宅に待機している人  
応急手当の他、避難時は車いす、担架、ストレッチャー等の補助器具が必要なことがある。



# 救出・救護活動

1. 防災資機材（ジャッキ、のこぎり、バール等）を活用し、協力して救出活動を行う。
2. 救護（応急手当）を実施する。
3. 避難所に集まった人で、救出・救護活動人員の割り振りを行う。

## 救出・救護手順

### 1. 被害の実態把握

- ①倒壊建物に取り残されている人がどのような状態か（けがの程度も含めて）確認する。
- ②建物の倒壊状況および内部に進入するスペースがあるかを確認する。
- ③二次災害が発生する危険要因がないか確認する。

### 2. 二次災害の防止

- ①木片、トタン、ガラス等の軽量物を除去する。
- ②柱、梁等の大きな物の周辺物を除去するときは、これらの大きな物がずれたり倒壊しないようにロープ等で支持、固定する。
- ③火災の発生に備え、消火器や水バケツを用意する。ガスの元栓や電気のブレーカーは早期に閉止や遮断を行う。

### 3. 要救助者の救出

- ①要救助者の近くまで掘り進んだ後は資機材を使わずに手作業にする。
- ②要救助者を無理に引き出そうとしない。

### 4. 応急手当

出血しているときは清潔なガーゼ等で傷口を圧迫止血する。

# 消火活動

1. 研修を受けた人が中心となり、耐震性防火水槽の小型動力ポンプ等を活用し、初期消火を行う。
2. 出火場所を確認し、消火活動人員を割り振る。

## 消火活動手順

### 1. 消火用水の選定

- ①火元に近い消火用水を選定し、強風時には風上側を使うなど風向きに注意する。
- ②河川使用時はストレーナーを水の流れに向けて投入し、浮かばないようにする。
- ③ポンプから水面までの高低差は7m以内を目安とする。

### 2. ホースの延長要領

- ①道路、建物の曲がり角では大きく曲げて、折れやねじれ、引きずりを避ける。
- ②ホースの結合は漏水しないように確実にを行う。

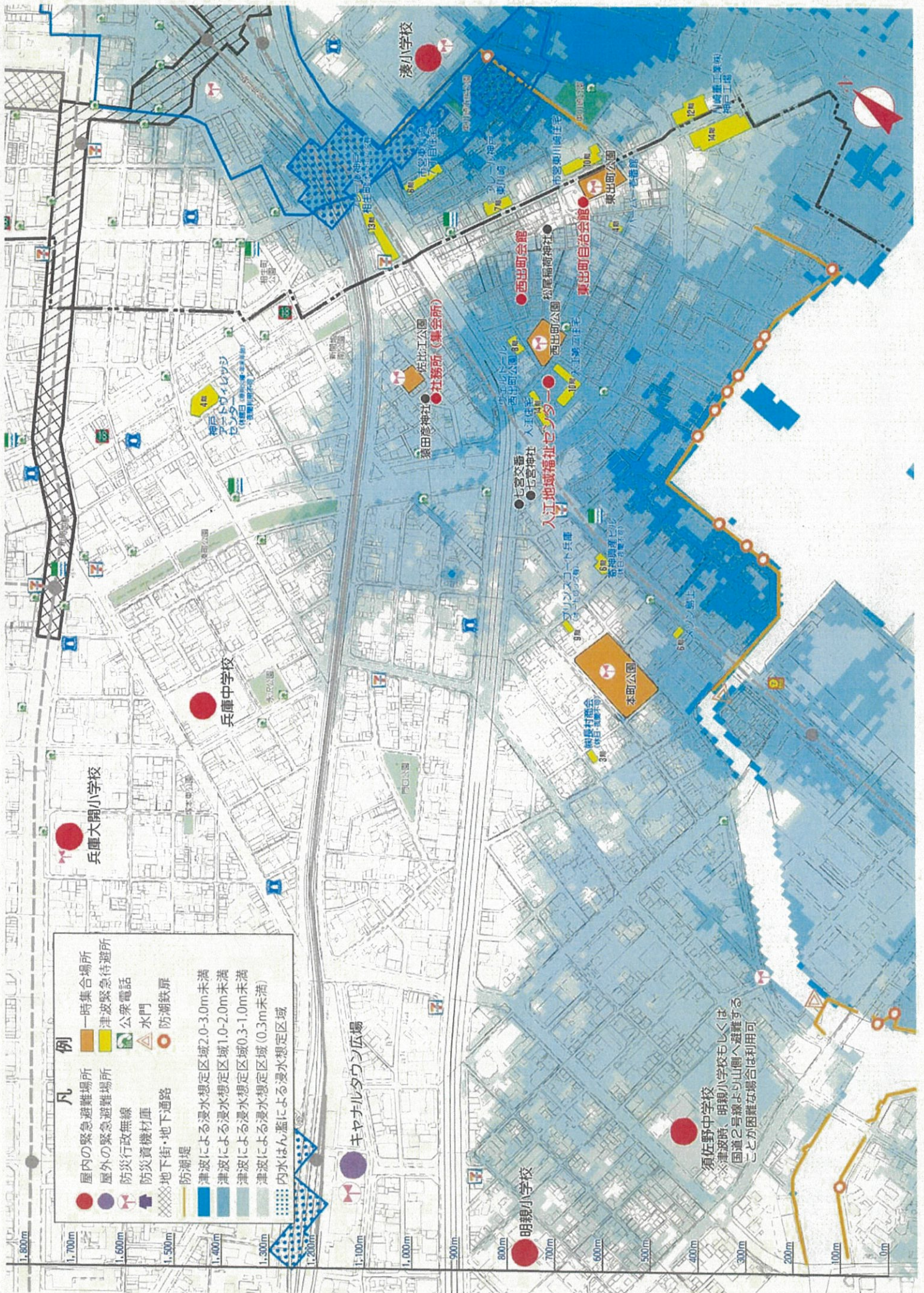
### 3. 送水の時期

- ①ホースの延長状況や筒先担当の「放水始め」の合図があってから送水する。
- ②放水口コックを開けるときはノズルの反動力を考え徐々に行う。

## 小型動力ポンプの使い方

- ①燃料コックを開く。
- ②スロットルダイヤルを「給水・始動」の位置に合わせる。
- ③リコイルスターターハンドルを強く引張り、エンジンを始動させる。
- ④給水レバーを引き上げ、水を吸い上げる。
- ⑤放水口コックをゆっくり開きながら全開にし、放水を行う。





- 凡 例**
- 屋内の緊急避難場所
  - 一時集合場所
  - 屋外の緊急避難場所
  - 津波緊急待避所
  - 防災行政無線
  - 防災資機材庫
  - 地下街・地下通路
  - 防潮堤
  - 津波による浸水想定区域2.0-3.0m未満
  - 津波による浸水想定区域1.0-2.0m未満
  - 津波による浸水想定区域0.3-1.0m未満
  - 津波による浸水想定区域(0.3m未満)
  - 内水はん濫による浸水想定区域
  - 公共電話
  - 水門
  - 防潮鉄扉

須佐野中学校  
 ※津波時、明親小学校もしくは  
 国道2号線より山側へ避難する  
 ことが困難な場合は利用可



